

発刊にあたって

学 長 沢 田 敏 男

明治32年9月京都帝国大学は、医科大学を開設すると同時に、看護婦養成所を設置し、明治44年10月には、医科大学附属医院産婆養成所が設置された。それからずっとおくれで、昭和34年4月に、医学部附属衛生検査技師学校が設置された。設置されてから、長い年月の間には、それぞれ名称、組織、修業年限、カリキュラムなども変化、変遷していったが、昭和50年4月、従来のものはすべて発展的解消をし、新制度による京都大学医療技術短期大学部が設置され、看護学科、衛生技術学科および専攻科助産学特別専攻として出発することになった。

従来の各種学校ないし専修学校とは異なり、3年制の短期大学ではあるが（専攻科は更に1年）、学問的にも人間的にもより高いレベルのものを志向して設置されたものである。短大の教育は、一般的には多様性に富んだ教育を特徴とすると言われているが、単なる知識の教育ではいけない。人格の陶冶に努めながら、如何にして学ぶかということを教育しなければならない。それは、在学中だけでなく、卒業後も、いな一生涯、「学ぶ心」を持ち続けなければならないからである。

学ぶ心を持った人は、何事に対しても積極的で、かつ謙虚であるし、他人に対してやさしく、思いやりがあるが、自己に対しては常に厳しい。その精神を表わしている木が、ユリノ木ともハンテンボクともいわれる木であろう。その花と葉は、やさしく愛らしく、その幹は剛である。この木を本学部の木とし、シンボルマークもそれを表わした。

紀要の発行が、諸般の事情で遅れたが、間もなく成長して、美しい花をつけてくれるであろう。そして一生涯、学ぶ心を持たせてくれる学術雑誌として、発展することを期待するものである。